科目名:成人看:	在学概論		配当年次1年	開講時期 1年後期		
単位・時間:1単位(30時間)			授業の方法:講義			
			12未90万仏・時報 験のある教員による授業 □			
授業概要	【講義内容】					
目的・到達目標		で学んだ看灌の対象と関浦	させて 成人間に	ある人の特徴を理解する さ		
口的 利廷口尔	基礎看護学概論で学んだ看護の対象と関連させて、成人期にある人の特徴を理解する。さらに、成人期の健康は生活環境、社会生活および加齢現象などの影響を受けることを強調し、					
	らに、成入期の健康は生活環境、任会生活やより川崎現象などの影響を受けることを強調し、 健康生活を育む健康行動と、健康生活を支援する環境づくり・ヘルスプロモーションに焦点					
	を当てた看護を学		ソ の探究 フトソー	リングラロ こ フョン (C.無点		
	でヨくに有暖で子~ 【目標】	O.*o				
	E	レにおける成人期の位置づ	は 成人手雑の怨	生性が対象を理解する		
		る健康の意味と保健活動の		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
		5月される理論を理解する		0		
		予している空間を空所する 予しいである。 予している。	<u> </u>			
授業の計画	【授業計画】	土地ができている。	<i>'</i> ∂₀			
汉未 7 日 四	1. 2.	成人と生活				
	1. 2.	(1) 成人各期の発達と特	与沙 尔			
		(2) 成人期の生活の特徴				
	3. 4	生活と健康	X			
	0. 4	(1) 成人を取り巻く環境	音レ生活からみたん	掛 事		
		(2) 生活と健康をまもり				
	5. 6. 7. 8	成人への看護アプローチ		-1		
	0. 0. 7. 0	(1) 生活のなかで健康行	— <i>'</i>	/ お経助		
		(2) 症状マネジメント	1到で工()、はく、	(4)(0,4)		
		(3) 健康問題をもつ大力	(レ寿雑師の人間)	即区		
		(4) 人々の集団における (4) 人々の集団における		• • •		
		(5) チームアプローチ		1/目唆/ノローノ		
		(6) 看護におけるマネシ	ジメント			
		(7) 看護実践における倫理的判断				
		(8) 意思決定支援				
		(9) 家族支援				
	9	ヘルスプロモーションと	看 誰			
	10	健康をおびやかす要因と				
		健康生活の急激な破綻と		·ス <u>寿</u> 誰		
	11. 12. 10	慢性病とともに生きる人		0/日収		
		障害がある人の生活とリ		,		
		人生の最後のときを支え				
	1 4	さまざまな健康レベルに		移行支援		
		新たな治療法、先端医療				
	1 5	筆記試験及び解説				
成績評価の 方法・基準	筆記試験100%	, ,,=,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,				
テキスト	【教科書】					
	=	成人看護学[1]成人看認	養学総論、基礎看 記	雙学[4]臨床看護総論、		
	系統看護学講座 成人看護学[1]成人看護学総論、基礎看護学[4]臨床看護総論、 健康支援と社会保障制度[2]公衆衛生・[3]社会保障・社会福祉 医学書院 e テキスト					
	図説 国民衛生の動向 2023/2024					
		リハビリテーション看護	、緩和ケア メデ	イカ出版		
履修上の注意						
事項						
	•					

科目名:成人看話	獲学方法論 I		DD-the Lills of the VAID			
	機にある人の看護)	配当年次2年	開講時期 2年後期			
単位・時間:1	単位(30時間)	授業の方法:講義				
担当者:中条 信	<u></u> 主代	実務経験のある教員による授業 🗆				
授業概要	【講義内容】					
目的•到達目標	社会的な責任が要求される成人期にある人	社会的な責任が要求される成人期にある人が、突然の主要臓器の病変や身体に急激な侵襲				
	を与える治療を行った時の異常の早期発見・	回復促進・心理的	社会的危機の回避・日常生活			
	行動の支援を理解する。					
	【目標】					
	1. 人間が生きていく上での基盤となる生命	機能(呼吸・循環	・脳神経)のメカニズムを理			
	解し、保持増進のための成人保健活動の	重要性を学ぶ。				
	2. 生命維持機能の障害により、生じる症状	が成人期にある人	の発達課題・自己実現にどの			
	ように影響していくのかを理解する。					
	3. 周手術による生体への侵襲が理解でき、	侵襲を最小限にし	、早期に社会復帰がはかれる			
	ための看護を学ぶ。					
授業の計画	1.2.3.4 周手術期にある人の特	徴と術前・術中・術	後の看護			
	(1) 手術侵襲による神経	圣・内分泌反応、台	上体調節機構関連図作成			
	(2) 術後合併症関連図例	乍成				
	(3) 外科的侵襲から回復	复期の生体反応				
	(4) 術前の看護/術中の	の看護/術後の看記	Ĕ			
	5. 6. 7 成人期に発症しやすい	呼吸器疾患とその	疾病の特徴			
	(1) 呼吸困難患者の看護	蒦				
	(2) 気胸患者の看護					
	(3) 肺がん患者の看護					
	8.9.10.11 成人期に発症しやすい		疾病の特徴			
	(1) ショック患者の看護					
	(2) 心不全患者の看護					
	(3) 虚血性心疾患患者の					
	12.13.14 成人期に発症しやすい脳神経疾患とその疾病の特徴					
	(1) 意識障害患者の					
	(2)頭蓋内圧亢進患					
	(3) 夕モ膜下出血患					
	(4)神経伝達障害患者の看護					
D. A. S. T. F.	15 筆記試験及び解説					
成績評価の 方法・基準	筆記試験100%					
テキスト	【教科書】					
	【教科書】 系統看護学講座 成人看護学[2]呼吸器、[3]循環器、[7]脳・神経、臨床外科看護総論					
	医学書院eテキスト					
	【参考文献】					
	適宜講師より紹介					
履修上の注意						
事項						
	I					

科目名:成人看護学方法論Ⅱ (生体防御を脅かされる人の看護)			配当年次2年	開講時期	2年後期	
単位・時間: 1単位(30時間)						
	担当者: 丸山 南海 中澤 健二			<u>.~</u> のある教員に	 よる授業 ▽	
		看護師として実務経験のあ				
めた講義を行う。				orcian co		
授業概要	【講義内容】					
目的•到達目標		子高齢化の進展や、慢性疾	患の増加など疾病	構造の変化。「	医療技術の進歩	
	標 近年は急速な少子高齢化の進展や、慢性疾患の増加など疾病構造の変化、医療技術 看護業務の多様化や意識の向上など様々なことが大きく変化している。					
		ために、細胞浸潤しやすく)特徴を知り、そ	
		護の機能を理解する。さら				
	応じた看護を学ぶ。		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	11,210,11	, = = = = = = = = = = = = = = = = = = =	
	【目標】					
	1. 免疫防御機能	の低下および悪性新生物罹	建時の特徴と、治	療・検査の意	意味を理解する。	
	2. 成人期にある	人の生体防御が脅かされた	ことにより、発達	課題や自己根	念、身体的・心	
	理・精神的・神	社会的側面に受ける影響を	理解する。			
	3. 成人期の特徴を	を踏まえ、患者と家族の死	の受容に応じた援	助や、それま	での生活を尊重	
	した援助の必要	要性を学ぶ。				
	4. 終末期におけるその人の最期が、人生の終焉にふさわしいと感じることができるような					
	看護を理解する。					
授業の計画	1. 2	患者の気持ちに寄り添う	コミュニケーショ	ン		
	3. 4	がん患者に生じやすい症	狀と看護			
		(1)がん患者の心理的反応	芯と精神症状			
		(2)精神症状のマネジメン	ント			
		(3) がん患者に生じやすい	ハ身体症状と看護			
	5. 6	がん患者に生じやすい身	/体症状と看護			
		疼痛/呼吸困難/悪心・	嘔吐/下痢/便秘	<u> </u>		
	7. 8. 9	がん看護 治療を受ける	患者の看護			
		(1)がん化学療法を受け	る患者の看護			
		(2)放射線療法を受ける	患者の看護			
		(3)緩和ケア				
	10.11.12	生体防御を脅かされる人	の看護			
		(1) 感染症/HIV 感染症/	/ 敗血症			
		(2)血液・造血器/白血素	病			
		(3)輸血療法				
		(4) 膠原病/関節リウマ	チ・全身性エリテー	マトーデス		
	13.14	死の意味と受容過程				
		(1)人生の終焉にふさわ	しい看護			
		(2)ホスピス				
	1 5	筆記試験及び解説				
成績評価の 方法・基準	筆記試験100%					
テキスト						
	面 日 神田田 ナーバ ボウ	/				

事項

科目名:成人看護学方法論Ⅲ			配当年次2年	開講時期 2年前期	
(生涯にわたるセルフコントロールを必要とする人の看護)			配当中次2中		
単位・時間:1単位(30時間)			授業の方法:講義		
担当者:池田 身佳 徳井 舞 実務経験のある教員による授業					7
特定看護師・身	集中ケア認定看護師と	として実務経験のある教員	が、その経験を活	かし実践的な事例を含めて	た講
義を行う。					
授業概要	【講義内容】				
目的・到達目標	生涯にわたるセルフコントロールを必要とする疾患を持ちながら、社会で役割を担ってい				
	る成人期の人が、働	動きながら病気と共存して	いくために、疾患	を適応していく過程とセル	ルフ
	ケアを促進するため	かの看護を理解し、社会復	帰に向けてエンパ	ワーメント・エデュケー	ショ
	ンを学ぶ。				
	さらに成人期に多	ě症しやすい疾患を中心に	、事例を活用しな	がら社会復帰に向けての表	看護
	と演習を通して考察	察を学んでいく。			
	【目標】				
		1る慢性的な疾患の特徴を			
		えと共存していくことで、			-
	3.慢性的な疾患を	ともちながら生活している	成人期にある人が	、早期に社会復帰できる。	よう
	に退院指導及び	/継続看護について習得す	る。		
授業の計画	1. 2. 3. 4				
	5. 6. 7. 8				
	(2) 胃切除後の患者の特徴と看護				
	(3) 大腸切除後の患者の特徴と看護				
	(4) 胆石症患者の看護				
		(5) 肝疾患患者の特徴			
	(6)消化・吸収障害時の看護 (事例を通して行動計画の立案)				
	0 10 11 10	(7)事例を用いて退 カハンパパイン (7) 事例を用いて退する。			
	9. 10. 11. 12	内分泌機能障害時の看記			
	13. 14	(1)内分泌機能障害力		「謝障善時の有護	
	(2) 甲状腺疾患患者の特性と看護				
	(3)副腎疾患患者の特性と看護				
	15	(4)甲状腺機能低下症	正の思者の事例展開	F)	
上が表現にあ	15	筆記試験及び解説			
成績評価の 方法・基準	筆記試験80%、雪	事例による関連図・計画立	案 パンフレット	作成20%	
アキスト	【数约】事】				
/ T A F	【教科書】 系統看護学講座 成人看護学[5]消化器、[6]内分泌・代謝 医学書院 e テキスト				
	米が有護子講座 成人有護子[5]相比益、[6]内分泌・代謝 医子書所 e フィスト 【参考文献】				
	適宜講師より紹介				
 履修上の注意		I			
腹形上ツ任息					

事項

到日夕,出 手	##₩÷₩÷₩₩					
科目名:成人看護学方法論IV (生活行動に障害のある人の看護)			配当年次2年	開講時期 2年後期		
単位・時間:1単位(30時間)			授業の方法:講義			
担当者: 岡田	歩美・山川 文枝		実務経験のある教員による授業 🗸			
乳がん看護認定	定看護師として実務経験	険のある教員が、その経	験を活かし実践的	な事例を含めた講義を行う。		
授業概要	【講義内容】					
目的・到達目標	社会的な責任が要求	求される成人期にある人	が、生活行動に障	害を生じることは、様々なス		
	トレスや危機に遭遇	するだけではなく、ライ	,フスタイルや役割	割の変更を余儀なくされるだ		
	め、本人およびその家族も病気を理解でき、障害に適応した生活が継続できるような看護を					
	学ぶ。					
	【目標】					
	1. ボディイメージ	変化を生じた人の抱える	苦痛と不適応を引	き起こすことを理解する。		
		于動障害及び社会的問題	, v			
			レス・危機・うつ	状態・喪失体験・悲嘆・防御		
	反応について学ぶ。					
		定の予防と社会復帰を目				
授業の計画	1. 2. 3. 4	ボディイメージの変容				
	自己概念/ボディイメージ/フィンクの危機理論					
	皮膚疾患のある患者の看護					
	皮膚の構造・働き/熱傷患者の看護					
	一種を表現している。					
	5 0 5 0	発生のメカニズム	/看護ケア			
	5.6.7.8 大腸がんの基礎知識					
	大腸の構造と働き/スクリーニング、診断治療の流れ/術後合併 症と看護ケア					
	症と看護ケア ストーマ造設患者の看護					
		身体的・心理的変		トラーセンガ		
		ストーマ管理(ス				
		段階的セルフケア		知门"文)英//		
	9. 10	子宮頸がんの基礎知識		診断/治療/看誰		
	3. 10	子宮体がんの基礎知識				
		婦人科手術の合併症と				
	11. 12. 13. 14	乳がんの基礎知識		診断/治療/看護		
		·		ア・ボディイメージの変容)		
		自己触診法	11 2 / /			
			(化粧/マニキュブ	ア/ウイッグ/補正下着/		
			パッド着用)			
	15	筆記試験及び解説				
成績評価の	<u>/</u> 25=1=4=4=1 0 0 0 0 /	(MHCOO/ JUL 4	00/00/20			
方法・基準	■ 華配码映Ⅰ∪0%、	(岡田60%、山川4	U 70V7百 <i>昇)</i> 			
テキスト	【教科書】					
	系統看護学講座 成人看護学[5]消化器、[9]女性生殖器、[12]皮膚、臨床外科看護総論、					
	臨床外科看護各論、がん看護学 医学書院 e テキスト 【参考文献】					
	適宜講師より紹介					
履修上の注意	1~8:岡田担当 9	9~14:山川担当				
事項						

科目名:成人看護学方法論V		配当年次2年	開講時期 2年後期		
(成人特有の疾病をもつ人の看護)			10000000000000000000000000000000000000	用神时别 2十1友别	
単位・時間:1単位(15時間)			授業の方法:講義		
担当者: 岡田	岡田 歩美 実務経験のある教員による授業				
実務経験のある	る教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行う。				
授業概要	【講義内容】				
目的•到達目標	成人期に	多い疾病を持っている人のペーパ	ペーペイシェントを	と用いて、科学的な視点でアセ	
	スメントし	、健康上の課題に対応する能力を	養うため、専門基	- 礎分野・専門分野での既習知	
	識の活用と	成人看護学概論·保健、方法論 I ~	-IVで修得した知	職を統合して事例展開をする。	
	成人・老	年看護学実習へ反映できるような	思考・臨床判断能	と力について学ぶ。	
	【目標】				
	1. 対象を	理解するために必要な学習を理解	する。		
	2. 成人期	の特徴および疾病の特徴を理解す	る。		
	3. 術後の	経過に起こりうる症状や課題を明	確にし、それに対	r 応した行動報告書の計画が立	
	案できる。				
	4. 対象の	状態に応じて、臨床判断モデルの	視点でアセスメン	/ トする能力を養う。	
授業の計画	1.	授業内容説明/事例内容紹介			
	2. 対象を理解するために必要な学習・知識の確認				
	3.4 行動報告書に基づいた演習/観察				
	5. 情報の説明				
	6. 7 行動報告書に基づいた演習/観察				
	8. 筆記試験/まとめ				
成績評価の	 筆記試験 60%、個人展開の提出物 40%				
方法・基準	事品的研 00 /0、 四八次 (所) √10 /0				
テキスト	【教科書】				
	系統看護学講座 成人看護学[1]成人看護学総論、別巻 臨床外科看護総論、別巻 臨床				
	外科看護各論、基礎看護学[4]臨床看護総論 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書				
	院 e テキスト				
	【参考文献】				
	事例内容によって異なるため、授業にて提示する				

履修上の注意 なし

事項